

# ヨハネによる福音書 I 章 19～28 節

「出会いがもたらすもの」



— 子どもの暴力や若者の犯罪の凶悪化が世界的に深刻な問題になっている。

「多くの若者や子どもたちが自分自身を築きあげる方法を見失っている。人間としての自分を組み立てることができなくなった結果、自己破壊的な状況に追い込まれているのです」

「子どもが自分の居場所を見失っている時に、方向を示す地図を教えてやる。あるいは自分が分からなくなった若者に、自分を映す鏡を差し出してやる。それは大人おとなの世代の責任なのです」

— その大人の側も指針を失っているようにもみえませんが。

「まさに問題はそこです。荒廃した若者たちは地獄を渡っているけれど、それはまず大人たちの問題なのです」

ピエール・ルジヤンドル

1930年～

フランスの思想家、精神分析家

一女性の手紙から

灰谷健次郎氏（児童文学者）  
の著作に紹介  
25歳の短大生、会社員

そして、今回、事件を起こし、受刑者生活を送った日々は、絶望も、屈辱も、悲しみも、苦悩もイヤという程、味わい、本当に死んでしまおうと考えました。そんな時『わたしの出会った子どもたち』を読ませて頂いたのです。あの本を読み終えて、人間は何かの力によって（神というのでしょうか）生かされているのかもしれない。それは、きっとその人にしかできない使命があるからではないだろうか。だとしたら、それを全うせねばならないのではないかと考えるようになりました。生きる力を与えられました。・・・勉強嫌いだった私が、生まれて初めて、先生と呼べる方である灰谷先生<sup>で あ</sup>に出逢えたおかげで、今、大変ですが通信制の短大で学んでいただけるのです。・・・私は、灰谷先生にお逢い<sup>あ</sup>できて本当に嬉しい<sup>うれ</sup>です。生きていてよかったですと思います。・・・灰谷先生は、〔宮城教育大学の学長でいらした〕林先生のことを「ぼくのはじめて出会った人間だった」と仰言<sup>おっしゃ</sup>いましたが、私のはじめて出会った人間は灰谷先生です。

私も、本当にいい人になりたいです。自分の中に自分以外の人に住んでももらいたいと願います。といっても、弱くバカな私ですから、きっと沢山<sup>たくさん</sup>失敗や苦しむと思いますが自己から逃げるのはよそうと思います。・・・過去を持ち続ける私を、生き返らせて下さった灰谷先生に心から感謝致します。



太刀打ち<sup>たちうち</sup>できない相手に出会ったことのある人間は謙遜を知っており、不思議と豊かで強くもある。

一片の知識が学習の成果であるならば、それは何も学ばないでしまったことではないか。学んだことの証<sup>あか</sup>しはただ一つで、何かが変わることである。

林 竹二 はやし・たけじ

1906～1985年

哲学者、教育学者、教育実践者

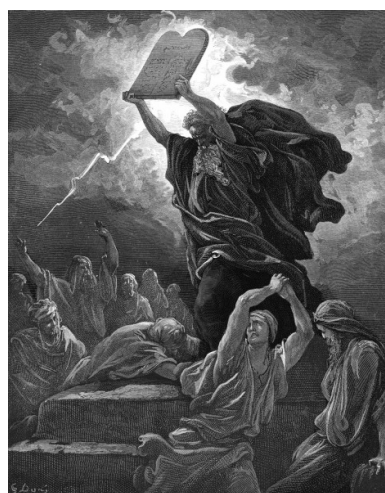
元・宮城教育大学学長

林先生は、「学んだことのたった一つの証<sup>あかし</sup>は変わることである」と言われました。私も変わる為<sup>ため</sup>に努めます。生まれて初めて、学んだことを生かします。

### 上記 一女性



エリヤ



モーセ

本当の出会い「その人自身」に関わることから始まります。片手が不自由な人に対して「真ん中に立ちなさい」・・・と促がされたイエスは、彼を遠巻きにして見ているだけで彼自身に出会おうとしない多くの人々に憤りをおぼえられました。私は機会ある毎に「障がい者である私」に出会うのではなく、私自身と出会って欲しい、そして交わって欲しいと言いつけています。こんなことを言わなくても、呼吸するように自然なかたちで健常者と障がい者が共生できる日が一日も早く来るようにと願って止まない私です。

身体に障がいを持たれた先生の一文



バプテスマのヨハネ

彼は告白して否まず・・・告白した。(20。口語訳)

わたしはメシアではない。そうではない。違う。(20、21)

わたしは 荒れ野で叫ぶ声である。「主の道をまっすぐにせよ」と。(23)

あなたがたの中には、あなたがたの知らない方がおられる。

その人はわたしの<sup>あと</sup>後から来られる方で、  
わたしはその<sup>はきもの</sup>履物のひもを解く資格もない。(26、27)

